

宮城野区幸町地区民生委員児童委員協議会

(平成 25 年 6 月 21 日掲載)

～防災体制再構築の取組について～

(1) 幸町地区と自由が丘

幸町地区は宮城野区の西端に位置し、幸町、幸町南、枅江、安養寺の 4 ブロック (33 名の委員) で構成されています。東部の沿岸部から約 10km 内陸で、平地から丘陵地に広がる地域です。幸い人的被害は報告されませんでした。家屋被害に伴う避難者支援活動 (避難所、在宅避難者) に委員は多忙な毎日でした。

私たち内陸部とは比べようもない甚大な津波被害に遭われた沿岸部地区では大変な苦労が続いていることを心配しています。

自由ヶ丘は安養寺ブロックに所属する地域で、3名の委員が担当しています。丘陵地に昭和 40 年代初期に造成され、約 600 世帯、人口約 1,800 名が住む、一戸建てを中心とした住宅地です。75 歳以上の方が 240 名前後と高齢化が見られる一方で、小・中学生も 80 名余りと多く、夏祭り、餅つき大会などは老若男女一緒に賑やかに盛り上がる町内です。

町内に防災環境は、指定避難所まで 1 km、給水所まで 2 km、町内集会所は収容 100 名程度、坂道が多く、交通手段はバスと自家用車です。「ライフラインが途絶すると、不自由ヶ丘に一変する」と、古くから町に住む高齢者からよく聞かされました。

昭和 53 年の宮城県沖地震の後、昭和 55 年に作られた町内防災活動はその後数年で停止状態になり、その後防災計画、防災組織、防災備品などは整備されないままでした。防災体制があまりにも脆弱であるとの反省から、平成 23 年 4 月から防災体制の再構築に取り組むべく準備をしていましたが、残念ながら間に合いませんでした。

(2) 震災直後

長く、激しい揺れが治まった後、家族の安全を確認して、安否確認に走りました。どちらの家庭でも家の中は家具食器の散乱で足の踏み場もない状態でした。

委員、町内会役員が集合し、けが人も倒壊家屋もないことを確認しあえた時は、本当にほっとしました。翌日からは飲料水確保、在宅避難者支援が取り組み課題になりましたが、大きな混乱もなく収束に向かうことができたのは、町内の皆さんの自助力、共助力によるものだったと感謝しています。

震災後の支援活動については、事前の準備が間に合わなかったために手探り状態となり、十分に対応できなかったことが大きな反省点です。皆が共有できる防災体制を事前に作っておくことの必要性を痛感しました。

現在では全壊、半壊の家屋もかなりの数が改築、新築とされています。生活に落ち着きが戻り、町内会行事も震災前と同じように開催されるまでになりました。

(3) 震災後の委員活動について～防災体制再構築の取り組み～

平成 23 年 5 月から自由ヶ丘の防災体制再構築について町内会と協力し、取り組みを開始しました。委員と町内会役員で構成する防災スタッフ会議を設置し、町内で共有できる防災体制を皆で作ることに心がけ、活動案を企画しました。

老若男女の参集となった防災会議は、ぎこちない世代間交流から始まりました。活動案について協議を重ねるなかで、防災活動班ごとの協議や、自主的なグループ会議などに繋がり、防災スタッフ会議へのフィードバックも数多くありました。

防災アンケートを全戸配布し、被害調査、防災活動への要望などを調査して、活動に必要な基礎データを収集しました。基礎データを基に、防災会議を重ね、防災訓練に向けて準備に取り組むこと 1 年半、平成 24 年 11 月に町内初の自主防災訓練を実施しました。

町内各班による安否確認、災害対策本部の立ち上げ、広報連絡班による訓練全体の統括、安否確認班の報告に基づく救出救護班の出動、給水給食班の炊出しなどを、地震発生からの時系列に沿って総合的に訓練しました。炊出しの豚汁とアルファ米を食べながらの反省会では、皆で訓練実施までこぎつけた達成感で一杯でした。

今年度は初期消火と避難誘導を訓練テーマとしています。今後は訓練を継続すること、活動内容を周知徹底することが重要な取り組み課題です。

防災活動取り組みの収穫は、若い世代の参加協力が大きな力となったことです。また、多くの関係先のご指導、ご協力が大きな支えになりました。感謝を申し上げます。



△▽防災訓練の様子



(4) 終わりに

全国からのご支援に感謝申し上げます。「災害時に、1 人も見逃さないように平時から準備しておくこと」が至言だと思います。減災のための準備を、できることから直ぐに始められることを祈念いたします。

○自由ヶ丘 防災体制再構築について

【活動機関について】

活動機関	活動内容	構成員	
防災スタッフ	活動案の企画と全体統括	町内会役員、民生委員	8名
防災会議	活動案について協議、決定	町内会役員、民生委員	8名
		町内活動5団体代表*	30名
		町内班長【21班】	21名
		公募した町内有志	20名
市会議員（町内在住）	1名		
自主防災組織	活動決定事項の実施	防災会議メンバー	80名
町内会総会	防災活動の説明と承認	町内会 会員	

*町内の活動5団体：福寿会・自由ヶ丘ボランティア・子供会育成会・
中学校地区委員会・遊友由隊（パパさんず）

【実施活動項目について】

項目	対象	内容
・防災アンケート	全戸配布	被害調査と防災活動への要望調査
・防災計画の作成	町内回覧板	地震発生前・発生後活動、自助、共助の活動
・自主災害対策マニュアル	全戸配布	発震後の個人行動、防災組織の活動内容
・安否確認活動の設定	全戸配布	住民・班長活動、安否確認宅地図
・あんしんカードキット配布	全戸配布	緊急用医療情報、連絡先カード（丸筒キット） 各家庭で冷蔵庫保管、消防署、交番へ届出
・防災備品設備		救助工具セット、発電機、照明、倉庫
・防災担当者ユニフォーム	リーダー用	災害時のリーダー認識用
・防災マップ	全戸配布	避難所、給水所へのルート、危険場所
・町内自主防災訓練	町内住民	全町内向う3軒両隣の安否確認活動 防災組織の各活動班による訓練

*活動予定と結果を回覧板「防災だより」で毎月、町内に報告しています。

【活動費用】

- ・共同募金会の住みよい地域づくり支援事業助成金
- ・共同募金会の防災マップ作成事業助成金
- ・町内会費用